

# 戦時下における子どもの生活 ～集団疎開から考える～

## 1 対象学年 中学3年生

## 2 ねらい

現在、世界では国や民族どうしの戦争が起こっている。また戦争に伴い、難民の増加などが国際的な問題になっている。その一方で各国や民族が自らの利益を優先するあまり、国際的な協調性が薄まってきている。

日本は戦後73年を迎えた。終戦から時間が経つとともに、戦争を体験した世代が次第に減り、直接話を聞く機会もなくなっている。子どもたちが戦争について考える機会も減少している。

また、日本は自衛隊を憲法に明記するといった動きもある。こうした情勢の中で、これから日本を背負っていく世代である子どもたちが戦争と平和について改めて考えていく必要がある。その中で中学校における平和教育の役割は大きい。

戦争は軍隊や兵士のみが関わるものではなく、戦場以外の人も非常に大きな被害を受ける。子どもという弱い立場の存在はその影響が顕著である。

第二次世界大戦中の子どもたちは、集団疎開で親元を離れ厳しい生活を強いられた。その状況は、今の生活を当たり前だと思っている子どもたちからすると想像を絶するものだろう。

疎開を体験した方の生の声を聞くことで、戦争下の子どもの気持ちや生き方にふれ、今の自分の生活や周りの人とのかかわり方を改めて見直す機会を設定する。そして、これからの平和な世界の実現のために何ができるかを考えさせたい。

## 3 指導の流れ

### (1) 準備

- ・難民や集団疎開の状況を伝えるためのスライド  
⇒写真や、具体的な数字を示したスライド。考えながら聞けるように穴埋め箇所を用意する。
- ・焼け跡に立つ虹 P197『学童疎開 水野 弘』  
⇒戦争体験者が当時の様子や体験を記した資料。集団疎開に行くことになった日から、玉音放送までのできごとや戦争体験者の思いが書かれている。当時の食料の不足や、親元を離れて生活することの寂しさがよく伝わる内容となっている。
- ・ワークシート
- ・ホワイトボード
- ・ホワイトボードマーカー

### (2) 講師

鈴木 正昭氏 愛知県西尾市在住

- ・昭和19年に9歳から約1年間にわたって集団疎開と縁故疎開を経験した。現在は、西尾市一色町の小学校6年生を対象に当時の体験を話す活動をしている。

### (3) 指導計画

#### 1 時間目

時間	学習内容と生徒の反応	◎留意点・支援
10	<p><b>【世界で起きている難民問題に目を向ける】</b></p> <p>○どうして世界中で難民になってしまう人が増えているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争が激しいから。</li> <li>・もともと住んでいた場所が戦争で住めなくなったから。</li> </ul>	◎難民問題に関心をもたせるために、パワーポイントで写真や具体的な数を提示する。
30	<p><b>【日本の歴史に目を向ける】</b></p> <p>○第二次大戦中、自分の住んでいるところが危なくなったらどうしていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危ない場所には住んでいられないから故郷を捨てたんじゃないかな。</li> <li>・2年のときの国語の授業で疎開について少し勉強したよ。集団疎開したんじゃないかな。</li> </ul> <p><b>【集団疎開について考える】</b></p> <p>○自分が疎開生活をするとなるとどう感じるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疎開は親元を離れるからきっと寂しいと思う。</li> <li>・疎開しても食料がほとんどないなんて辛いと思う。</li> </ul>	◎疎開について学習するきっかけをもたせるために、光村図書2年国語「字のない葉書」を想起させる。
10	<p><b>【本時の学びを振り返る】</b></p> <p>○学んだこと、今後学習したいことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でも戦争で危険な地域から避難していた歴史があったことを知った。疎開は辛そうだなと思った。当時の疎開者はどんな気持ちだったのかももっと知りたいと思った。</li> </ul>	◎今後の学習に課題意識をもたせるために、「もっと知りたいこと」という視点をもたせる。

#### 2、3 時間目

時間	学習内容と生徒の反応	留意点・支援
5	<p><b>【講師紹介】</b></p> <p>○講師の方について知ろう。</p>	
80	<p><b>【疎開体験を聞く】</b></p> <p>○疎開体験の話を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疎開生活はすごく大変そうだね。「焼け跡に立つ虹」で読んだのと同じように、家族と会えないことに対する寂しい思いが大きいんだね。</li> </ul> <p><b>【質疑応答】</b></p>	◎内容を整理しながら話を聞けるようにするために、視点を示したメモ用ワークシートを用意する。
15	<p><b>【本時の学びを振り返る】</b></p> <p>○学んだことを書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疎開は僕が思っている以上に辛いものだった。幼い子が家を離れて生活せざるを得なくなってしまうなんて、戦争下の子どもたちの生活は本当に厳しいと思う。</li> </ul>	◎今後の自分の生活につなげるために、自分の生活を振り返り、自分なりに何ができるかを考えさせる。

#### 4 実践のまとめ

【1時間目】現在の世界の難民事情から、第二次世界大戦中の集団疎開に目を向ける。

##### (1) オリエンテーション

平和の授業を行うことで、学年全員が一つの教室に集まった。しかし、今まで「平和」というテーマで授業を受けた経験に乏しく「それは道徳ですか」といった質問が生徒の中から出てきた。そこで、これから行う平和の授業の意義と流れ、そして教師の思いを話した。教室に集まったときにはいま一つ理解していなかった生徒も、その話を聞いて理解したようだった。

##### (2) 難民の現状について知る

まず、パワーポイントのスライドを使って世界で起きているさまざまな紛争やその被害の写真を生徒に提示した。無残にも破壊された建物、逃げ惑う人々の姿を真剣なまなざしで見つめる生徒の姿があった。

その後「今見たように戦争で被害を受けるのは戦う兵士だけでなく、多くの民間人など弱い立場の人、そういった人たちが今『難民』となって世界中にたくさんいる」と伝えた。そこで、現在の難民の数を伝えると生徒から「そんなにいるの」と驚きの声があがった。その後、難民の生活や集団で避難する様子をスライドで紹介した。(資料1)



資料1 スライドを用いた授業の様子

##### (3) 第二次世界大戦中の日本に目を向ける

難民の現状を知った後、「こうした、戦火から逃れるために避難するということは、以前に日本でも行われていました。2年生のときの国語でやった『字のない葉書』を覚えていますか」と問いかけると「集団疎開」と生徒たちは口々に答えた。そこで「この後は、戦時下の日本に目を向けて、当時日本で実際に行われていた集団疎開に焦点を当てていきます」と伝えた。

##### (4) 集団疎開について知る ～「焼け跡に立つ虹」より～

「焼け跡に立つ虹」の学童疎開にまつわる話を読み、戦争の激化に伴い親元を離れ集団疎開が行われたこと、疎開先の生活は食料不足であったこと、ときに親の面会があったが、あまりの寂しさに脱走するものがあったことなどを知った。(資料2)さらに、今回は実際に集団疎開を経験した人のお話を伺うことを伝えた。生徒の感想から、当時の大まかな疎開の様子について知ることができたと感じた。また、生の声を聞けることを知った生徒の中には、もっと知りたいと感じたことについて感想を書く者もいた。(資料3)



資料2 「焼け跡に立つ虹」を読む生徒の様子

私はあの疎開のことは知らなくて、地方に逃げていくだけだと思、てました。  
 でもそれは全然ちがうくて、小さいのに親から離れて生活をするともうらしいし、  
 ほとんどの食事もなく、脱走しちゆうくらいうらいたと初めて知りました。  
 疎開のときは、お風呂とかどうしてたのか気になります。あと、疎開中に  
 一番うらかったときはいつなのか気になりました。

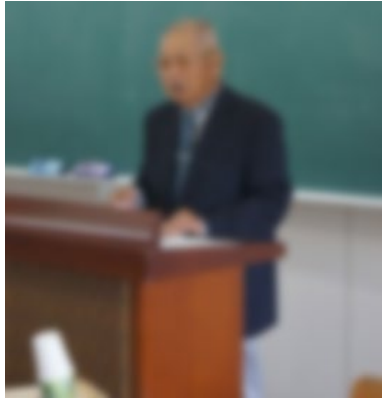
集団疎開をしている子は、家族に月1回しか会えない辛さを味わ  
 いました。私は毎日家に帰れば家族に会えるし、笑いの合点でいってかして  
 てます。その子たちはそれすらもで生ながらです。でも、1人じ  
 ぶで良かったら、すごく感じられたんじゃないかなと思、てました。  
 たぶん他人と、隣に誰かいてくれることは1人ではよりす、てると、強、りし、  
 生かようとする気持ちと身とてかいてたんじゃないかな、と。実際本当にそうなの  
 が分からないから笑、たいです。私は<sup>集団</sup>経験じゃなくても話を聞いてても学、ぶが  
 周りに伝えたいし、家族、友達、関わ、てくれる人を大切にしたいです。

資料3 生徒の感想

【2, 3時間目】

前時同様、学年全員にむけて「本日は、小学校三年生の頃、実際に集団疎開を経験した方に来ていただきます」と伝えた。その後、前時の授業で出てきた「もっと知りたいと感じたこと」についての感想をいくつか伝え合い、生徒同士で抱いた思いを共有した。

講師の方とはあらかじめ打ち合わせで①自己紹介②戦時中の家庭生活③集団疎開の体験について④集団疎開の感想⑤転寮命令による縁故疎開への切り替え⑥戦時中の子どもの生活⑦教育の大切さ⑧結びの8個の項目に分けて話をさせていただくこととしていた。あらかじめ項目が書かれたワークシートを用意して、講師の方の話をメモしながら聞けるようにした。また、講師の方の話の項目ごとの要点を教師が板書して、話を聞きながらメモを取るのが苦手な生徒も後から黒板を見ることで話の内容を項目ごとに整理できるようにした。



資料4 鈴木氏による講演の様子

③集団疎開の体験や④集団疎開の感想の中で講師の方から「周りと協力することが大切」や「苦しい状況でも励まし合って暮らしてきたことで、強い絆ができた」など、現代の子どもたちの生活にも生かしていける話を聞くことができた。また⑦教育の大切さでは、「人間、一人一人の命を大切に教育をしていってほしい」というお言葉をいただくことができた。(資料4)

生徒は真剣な様子で話を聞いていた。はじめに紹介した前時の感想にかかわる内容になると、うなずきながら考えて聞く生徒が多く見られた。

質疑応答では多くの挙手があり、質問の中には「僕ら中学生がこれから平和な世の中

にしていくためにできることはなんですか」という質問があった。それに対して「普段の何気ない生活の中で思いやりや協力の心をもつことだよ」という回答をいただいた。平和に対してのはたらきかけは、戦争中の国のみが考えるだけでなく、そうでない国の人々も、身の回りの友達や家族のことについて考え行動することで実現できると生徒たちが理解できた瞬間であった。(資料5)

#### 資料5 生徒の感想

学生の人たちがしていたと考えれば戦争とは本当にひどく、2度と起こってはならないものだと思います。だから、これからは鈴木様がおっしゃっていたように命の大切さを学び、相手を思いやる優しい心を持って生活していきたいと思います。今、私ができることはそれくらいありませんが、世界中の人がそういう心を持ち、笑いあって暮らせるときがくることを信じて生活していきたいと思いました。	そして、今後家族や友達と生活していく中でどんないいやなことがあったとしても、鈴木様がおっしゃったように相手を思いやる優しい気持ちを持って接していけるようにしたいと思います。 戦争の怖さや、命の大切さを心に刻み、今後戦争がおこらない笑顔あふれる平和な世界になって戦争という言葉がなくなることを願っています。
--	---

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・現在の難民の具体的な数や写真、集団疎開の写真を提示することは、難民や集団疎開にあまり興味をもてない生徒に関心をもたせるために有効だった。
- ・「焼け跡に立つ虹」を活用することは、集団疎開について知識が浅い生徒が集団疎開の様子を理解できたため有効だった。
- ・講師の鈴木氏による講話は、戦争体験についてほとんど聞いたことがない生徒にとって、当時の辛さや今の生活の豊かさを知り今後の自分の生活を見直すために有効であった。
- ・講話を項目が分けられたワークシートにメモをとりながら聞くことは、集団疎開での生活などの事実と、その体験から得た思いを区別して考えることができ、体験者の思いを的確にとらえるために有効であった。

### (2) 課題

- ・今回多くの生徒が得た「生活の中で思いやりや協力の心」が大切だという思いを、継続させ行動に移していけるように、見守り、支援していく必要がある。

## 6 実践を終えて

本実践で難民問題という現代の問題を足掛かりに、第二次世界大戦中の集団疎開について再考させ、これからの生活について考えていくことができた。過去の事実を知るのみでなく今後の生き方にまで多くの生徒の考えがいたっていた。本実践を通して得た平和への価値観を継続していけるように、今後も実践に取り組んでいきたい。